

首都圏のページ



水路復活で東京の再生を

「江戸・東京の川 体感型博物館」

Key report

江戸文化を再評価し、復活させようという動きが次々と始動している。そのエネルギーは行政を突き動かすほどの勢いになっている。多摩美術大(東京都八王子市)の渡部一二(わたべ・かずじ)教授を中心とする研究グループが提案する「江戸・東京の川 体感型博物館」もその一つ。江戸の水路を復活させ、東京再生につなげようという構想だ。

(小松勝彦)

渡部多摩美大教授が提案

研究の出発点は、都市計画に携わる夢を抱きながら大学に入学するため上京して、隅田川や日本橋川の無残な姿を目撃。そこで自ら地図とカメラ、スケッチブックを手に全国を巡り、川を生むという。

当時、川の重要性を説く教授はいなかった。そこで自ら地図とカメラ、スケッチブックを手に全国を巡り、川を生むといふ。

水辺で浮世絵の風情樂しむ

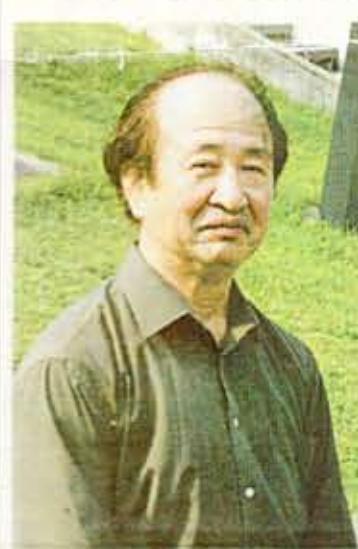


広重画「日本橋雪晴」。江戸の人々の営みや街並みをよく表す



テラライトを中心とする「江戸・東京の川 体感型博物館」のネットワーク

渡部教授らが提案する「江戸・東京の川 体感型博物館」



渡部一二教授

え方とともに、水路を中心とした街づくりが広がった。前者の代表格が多摩川上本橋川だ。多摩川から水路で水を引き、武藏野台地を潤し、自然の地形特性を読んで家の近くまで水を取り込み利用した。だが、現在ではその多摩川上水はごく一部を残しほどんどうぶされてしまつたし、日本橋川もまた、水運機能を持つ面影はもはやない。

渡部教授らが提案する「江戸・東京の川 体感型博物館」

の構想は、安藤広

重や葛飾北斎などの浮世絵

に、川をテーマにして描いた

教授のこの構想は、安藤広

重や葛飾北斎などの浮世絵

に